国立国語研究所学術情報リポジトリ

沖縄県うるま市津堅

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-05-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 又吉, 里美 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003557

沖縄県うるま市津堅*

又吉里美
岡山大学

1. はじめに

本稿は，沖縄県うるま市津堅（つけん）の方言についてこれまでの調査で得られたデータをもとに記述するものである。本稿で示すデータや例文は，国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」の調査票調査[1]によるもののほか，これまでの筆者の研究活動の調査で得られたデータや談話資料のデータなどを用いている。なお，談話資料からのデータについては，共通語訳のあとに「（談話資料）」と付す。

また，本稿の格や動詞形態論，アスペクトに関する記述は，又吉里美（2015），又吉里美（2016）の報告におけるデータや解釈に依拠した部分がある。なお，文法記述の項目として未調査や調査不足の項目も多くあるが，これらは今後の課題とし，本稿では，下記の構成で津堅方言の文法を記述する。まず，2 節では，津堅島の地域および方言的位置づけの概要を述べる。続けて，3 節で音韻論，4 節で名詞について，5 節で動詞について，6 節で形容詞について，7 節で焦点助詞などについて記述する。

2. 地域の概要

津堅島は，周囲約 8 km，面積約 1.8 km^2 の島で，北緯 26 度 15 分，東経 127 度 56 分にあり，沖縄本島中南部東海岸に面した与勝半島の南東約 5 km に位置する。かつては，勝連町に属していたが，現在は平成 17 年 4 月 1 日に，具志川市，石川市，勝連町，与那城町の 2 市 2 町が合併してできた「うるま市」の行政区域に含まれる。

琉球諸方言内における津堅方言の言語的位置づけについては，かりまた（2002）に次のような記述が見られる。

> 沖永良部与論沖縄北部諸方言

* いつも丁寧に津堅方言を教えてくださる恩納トヨ氏、又吉幸子氏、津堅島の皆様に感謝申し上げます。本研究は、国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」（代表：木部暢子氏）の支援を得て行ったものです。また、科研費 19K00646「言語バリエーションとしての方言文法の多様性を生む社会的・語用論的な要請の解明」（代表者：又吉里美）の助成を受けたものです。

[1] また、国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」における調査では主に下記の 2 名の協力を得ている。

・恩納トヨ氏、昭和 3 年生、津堅島出身、昭和 42 年に沖縄市へ移住する。
・又吉幸子氏、昭和 23 年生、津堅島出身、中学卒業後、沖縄本島などに住む。

協力者の 2 名は生え抜きではないが、家族内での言語使用は津堅方言である。また、津堅島出身者の多くは、島の地理的な状況や生活環境、また戦中・戦後の状況などから、生え抜きである話者はほとんどいない。協力者 2 名の津堅方言の使用については、単語調査や文法調査における回答などから、津堅方言の特徴を保持していると認められる。

沖永良部，与論島，喜界島，沖縄北部地域およびその周辺離島で話されている方言である。また，沖縄本島南部の知念村の久高島と中部の勝連町の津堅島の方言も，沖縄北部方言に含まれる。沖縄本島には沖縄中南部諸方言と沖永良部与論沖縄北部諸方言の境界がある。東側すなわち太平洋側では，金武町屋嘉と石川市石川の間に，西側すなわち東志那海側では恩納村恩納と恩納村谷茶のあいだにある。（かりまた 2002:167）

図 1　沖縄本島および津堅島の位置

すなわち，津堅島は地理的には沖縄本島中部に位置するが，琉球諸方言内における言語的位置づけでは沖縄北部諸方言に含まれ，地理的位置と言語的位置づけとがずれる。津堅方言が沖永良部与論沖縄北部諸方言に含まれる理由としては，次のような特徴を有することが挙げられる。P 音の残存状況，格形式において移動に関わる方向格と存在に関わる場所格の形式を別に持っていること，沖縄本島中南部で盛んに用いられる具格の saani 形式は持たないことなどで，これらは沖永良部与論沖縄北部諸方言の特徴でもある。

続いて，津堅島における言語継承の状況について述べると，おおむね以下の状況である。

1）話者：60 代以上においては話す・聞くの運用能力がある人が多い。60 代～30 代の人では，日常生活において，聞いて理解できるが，話すことは共通語ベースで，津堅方言を流暢には話せない人が多いと思われる。なお，デイケアサービスの施設では，20 代の若い人を含めて部分的に津堅方言を使用している様子が見られる。

2）資料：①琉球方言研究クラブ（1989）『琉球方言 17 号－津堅方言の音韻と語彙』琉球大学方言研究クラブ

②比嘉繁三郎（1990）『津堅島の記録』，沖縄自分史センター

①は，1982 年～1989 年にわたって調査が行われ，その調査をもとに音韻が整理されている。インフォーマントに明治生まれの方が多く含まれているので，伝統的な津堅方言の音声の記述になっていると考えられる。

②は，津堅島出身の比嘉繁三郎氏（大正 4 年生）による津堅島の様々な記録である。津堅島の歴史，習慣，年中行事，風俗から産業，教育，戦争記録など，多岐にわたって記されており，個人による記録ではあるが，資料的な価値の高いものであるといえる。言語については，方言語彙のほか，俗諺などもいくらか収められているが，あまり多くはない。

3. 音韻論

3.1 音素目録

3.1.1 母音音素

津堅方言の母音音素は表 1 に示すとおりである。

表 1　津堅方言の母音音素

	前舌		後舌
狭	i [i]		u [u]
	e [e]		o [o]
広		a [a]	

伝統的には，母音は語頭では，/ʔaNda/ [ʔanda]「油」，/ʔiN/ [ʔiɴ]「犬」，/ʔusi/ [ʔuɕi]「牛」のように声門閉鎖音 [ʔ] が現れていたと考えられるが，現在では，語頭の母音の前の声門閉鎖音は発音されたり発音されなかったりと曖昧になっており，音韻的な対立が失われつつある。また，[e] [o] は [paːeː]「かけっこ」，[tumpeː]「つば」，[poːtu]「鳩」，[ʔinoː]「礁池，海の浅瀬」のように長母音化して現れることが多い。他にも，[daikoɴ] > [deːkuɲi]「大根」のように母音融合によって生じた長母音に見られる。その他，[e] [o] は，共通語からの借用語，オノマトペ，感動詞において，比較的多く聞かれる（e.g. [tempuɾa]「てんぷら」，[undoːbaː]「運動場」，[oɾo.oɾoɸuɴ]「うろうろする」，[t͡ɕeː]「おい（相手を脅すようなときに発せられる）」）。

3.1.2 子音音素

津堅方言の子音音素としては，表 2 に示すとおりで，すなわち，/p/ /b/ /t/ /d/ /k/ /g/ /ʔ/ /m/ /n/ /r/ /s/ /h/ /ʦ/ /c/ /z/ /w/ /j/ /N/が認められる。摩擦音は/i/の前で口蓋化する（e.g. /sima/ [ɕima]「島」，/hii/ [çiː]「しろ（「する」の命令形）」）。また，無声破擦音の/ʦ/については，共通語からの借用語と考えられる語において聞かれる（e.g. /satsu/ [satsu]「札」，/nikwagetsu/ [ɲikwagetsu]「二ヶ月」）。有声破擦音/z/は，同一単語でも発音にゆれが見られることがある（e.g. /niNzuN/ [ɲindʑuɴ ~ ɲindzuɴ]「寝る」，/siiza/ [siːza ~ siːʑa]「年上」）。

表 2　津堅方言の子音音素

		両唇音	歯音～歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
破裂音	無声	p [p]	t [t]		k [k]	ʔ [ʔ]
	有声	b [b]	d [d]		g [g]	
鼻音		m [m]	n [n~ɲ]			N [n~ɲ~ŋ~ɴ]
弾き音		r [ɾ]				
摩擦音	無声		s [s~ɕ]			h [h~ɸ~ç]
破擦音	無声		ʦ [ʦ]	c [ʨ]		
	有声		z [ʣ~ʥ~z~ʒ]			
接近音		w [w]		j [j]		

3.2　音節構造

津堅方言における音節構造について，未整理のため，本稿では，音節のパターンを以下に提示する。

表 3　津堅方言の音節パターン

音節の型	語例	
C	/N.ni/ [nni]「胸」	C.CV
CV	/si.ba/ [ɕiba]「舌」	CV.CV
CVV	/taa/ [ta:]「誰」	CVV（長母音）
	/tui/ [tui]「鳥」	CVV（二重母音）
CVC	/saN.niN/ [saɲɲin]「月桃」	CVC.CVC
	/wat.taa/ [watta:]「私たち」	CVC.CVV
CCV	/i.hwi.gwaa/ [iɸigwa:]「少し」	V.CCV. CCVV
CCVV	/ʔwaa/ [ʔwa:]「豚」	CCVV

3.3　アクセント

津堅方言のアクセントについては未調査である。先行研究では, 琉大琉球方言研究クラブ（1989）で，次の記載がある。

> 『琉球方言』第 3 号においては，「少なくとも音声的には平板か下降かの二種類の型がある（p.68）。」と報告されている。しかし，『琉球方言』第 4 号では，「二音節名詞はアクセントの区別がない。助詞をつけないときはすべて◯●であり，助詞をつけると◯●▲になったり，◯●△になったりする。両者は区別がないようである（p.29）」となっている。

私たちの調査の結果，一音節名詞は，単独では区別がなく，すべて$\overline{◯}$であり，助詞がつくと，2 通り（$\overline{◯}$▲，$\overline{◯}$△）のあらわれかたをするようである。ただし，この 2 通りのあらわ

れかたは，アクセント型による区別はしめしていないようである。二音節名詞は，『琉球方言』第 4 号の報告と同じであった。（琉大琉球方言研究クラブ 1989: 25）

4. 名詞

ここでは，名詞について，以下の内容を記述する。4.1 節では，名詞の内部構造について，特に単数と複数，指小辞について，4.2 節では，人称代名詞の構造と体系について，4.3 節では，格の種類と機能について述べる。また，4.4 節では，指示詞について記述する。指示詞は複数の品詞にまたがるが，指示代名詞の記述を中心とすることから，本節に収めた。

4.1 名詞の内部構造

名詞の構造について，下地（2018: 86）では，伊良部方言の名詞について「名詞には語の完成のために必須の接辞はない（すなわち屈折しない）ので，語幹のみからなる」と述べる。津堅方言も同様に，名詞は語の完成のための必須の接辞はなく，語幹のみからなる。ただし，語幹には派生接辞として指小辞や複数接辞などがつくことがある。指小辞と複数接辞の接続の順は下記のようになる。

［*tui-gwa-taa*］語幹-指小辞-複数接辞（*tui* は「鳥」）

4.1.1 単数と複数

複数接辞には *-taa* と *-Nsaa* の 2 つが見られるが，一般的なのは *-taa* である。*-Nsaa* は限られた名詞につき，あまり生産的な接辞ではないと考えられる。

-taa は，「*paapa*（おばあさん）」「*waraba*（子ども）」など特定の年齢層（の男女）を表す語，「先生」「軍属」など職業や所属を表す語，「ハナコ」などの人名を表す語などにつく。また人称代名詞の複数形の「*wattaa*（私たち）」などの末尾部分の *taa* も，複数接辞 *-taa* が接続したものである。さらに，*tui-gwa-taa* のように指小辞をともなった動物にも *-taa* をつけることができる。ただし，直接 *-taa* をつけて **tui-taa* とすることはできないようである。

また，一般的に *-taa* は，モノ名詞にはつけることができないが，指小辞 *-gwa* をつけた形に *-taa* をつけて，複数例示の意味で用いることができる(1)。

(1) *uma=nu* *kutsu-gwa-taa=ϕ* *kataziki-ri=be.*
そこ=GEN 靴-DIM-PL=ACC 片付ける-IMP=SFP
（靴や草履など複数の種類のものがある場合）そこの靴などを片付けなさい。

-Nsaa は，もっぱら「*kwa*（子ども）」「*uja*（親）」「*soree*（兄弟）」「*umaga*（孫）」などの親族関係を表す語につき，それ以外では「*rusi*（友人）」「*cu*（人）」につくくらいである。

表 4　複数接辞 *-taa* と *-Nsaa* がついた語例

-taa		*-Nsaa*	
特定の年齢層（の男女）	*paapa-taa* おばあさんたち	親族関係を表す語	*uja-Nsaa* 親たち
	waraba-taa 子どもたち		*kwa-Nsaa* 子どもたち
職業や所属を表す語	*sjeNsjee-taa* 先生たち		*soore-Nsaa* 兄弟たち
	gunzoku-taa 軍属たち		*umaga-Nsaa* 孫たち
人名	*hanako-taa* ハナコたち	その他	*rusi-Nsaa* 友人たち *cu-Nsaa* 人たち
人称代名詞（複数形）	*wattaa* 私たち		
	ʔittaa あなたたち		
	attaa 彼ら		
指小辞付き動物	*tui-gwa-taa* 鳥たち		

4.1.2　接辞

接辞の中で，よく聞かれるものの一つが指小辞 *-gwa* である。指小辞 *-gwa* は，それ単独で使用することができず，必ず前に名詞を伴う接尾辞である。指小辞 *-gwa* は，多くの琉球諸語で一般的に見られ，「子」を表す *kkwa* に由来するとされる。そうした由来を持つことから，*tui-gwa* と言えば，小鳥やひな鳥を指すなど，実際にその個体の大きさが小さなものや「ひな」や「子ども」の時期にあるものを言い表す。しかし，それだけでなく，*-gwa* はあらゆる名詞につけることができる。以下，自然談話内で発話された語例をいくつか示す。

表 5　指小辞がついた語例

分類語彙表の分類項目	**名詞**	**接辞 *-gwa* 付き**
（自然，動物，その他の動物）[2]	*Nkazi*：ムカデ	*Nkazi-gwa*
自然，動物，その他の動物	*Nna*：貝	*Nna-gwa*
自然，植物，草本	*sibui*：冬瓜	*sibui-gwa*
生産物，食料，薬剤・薬品	*kusui*：薬	*kusui-gwa*
生産物，食料，魚・肉	*niku*：肉	*niku-gwa*
（生産物，食料，魚・肉）	*ʔwaa=nu zjuu*：豚の尻尾	*ʔwaa=nu zjuu-gwa*
生産物，資材，ばね･栓	*pai*：針	*pai-gwa*
生産物，物品，荷・包み	*nimuci*：荷物	*nimuci-gwa*
生産物，土地利用，道路・橋	*saNsaro*：三叉路	*saNsaro-gwa*

[2] 分類語彙表には項目が不掲載のため，筆者の方で判断したものには（　）を付している。なお，「豚の尻尾」はここでは，子どものおしゃぶり替わりのものとして使用されたという文脈での使用なので，動物の身体の一部としてではなく，「生産物，食料，魚・肉」とした。

-gwa は, 動植物, 食料, 資材, 物品, 道路などあらゆる部類の名詞につけることができる。「貝」「薬」「針」などは，たしかにその大きさが一般的には小さいと捉えられるが，「荷物」や「冬瓜」など小さいとは限らないものにも付く。例文 (2) を見ても，「冬瓜」が大きいことに言及されており， *-gwa* は小さいということを含意するとは限らないことが分かる。さらには「三叉路」など，モノではなく地理的形状にも付くことができる。

(2) *sibui-gwa, uppi si-ru sibui-gwa=ga uma=Nka na-tu-ta-kutu,*
冬瓜-DIM これくらい する- ADN 冬瓜-DIM=NOM ここ=LOC1 なる-PROG1-PST1-CSL
冬瓜，これくらいの（＝こんな大きな）冬瓜がここになっていたから，（談話資料）

また，*simigwa* や *jaNrigwa* のように *-gwa* が付いて単純語化した語も見られる。

表 6　指小辞 *-gwa* が付いて単純語化した語例

語- *gwa*		単純語化	意味
simi（隅）*-gwa*	→	*simigwa*	家屋の作りにおいて，「裏座」とされる部屋のこと
jaNri（破損）*-gwa*	→	*jaNrigwa*	悪天候

4.2　人称代名詞の構造と体系

津堅方言の人称代名詞を整理すると表 7 のとおりである。1 人称複数においては，除外形と包括形で形態の区別がある。また，1 人称，2 人称の単数においては格によって形態が異なる。

表 7　津堅方言の人称代名詞の体系

		単数	複数[3]
1 人称	除外	*waa/waN*	*wattaa*
	包括		*biti*
2 人称	一般	*ʔjaa/ʔjaami*	*ʔittaa*
	尊称	*naa/naami*	*nittaa*
3 人称		*uri/ari*	*uttaa/attaa*

主格，属格，共格，名詞述語における形態を提示すると，表 8 のとおりである。また，3 人称複数も *uttaa* と *attaa* の 2 つの形が見られるが，その使用差はよく分かっていない。なお，3 人称単数 *uri* と *ari* は，指示代名詞でも用いられる形態であり，指示代名詞との関連とも合わせて使用実態を捉える必要がある。

[3] 複数接辞-*taa* については，「4.1.1　単数と複数」を参照。

表 8　津堅方言の人称代名詞の体系と格標示

	主格	属格	共格	名詞述語
1 人称・単数	*waa=gaa/= ϕ*	*waa=ga/= ϕ*[4]	*waN=tu*	*waN*
1 人称・複数（除外）	*wattaa=ga*	*wattaa= ϕ*	*wattaa=tu*	*wattaa*
1 人称・複数（包括）	（*biti=ga*）[5]	*biti=ga*	（*biti=tu*）	*biti*
2 人称・単数	*ʔjaa=ga*	*ʔjaa=ga*	*ʔjaami=tu*	*ʔjaami*
2 人称・複数	*ʔittaa=ga*	*ʔittaa=ga*	*ʔittaa=tu*	*ʔittaa*
2 人称・単数（敬称）	*naa=ga*	*naa=ga*	*naami=tu*	*naami*
2 人称・複数（敬称）	*nittaa=ga*	*nittaa=ga*	*nittaa=tu*	*nittaa*
3 人称・単数	*ari=ga* *uri=ga*	*ari=ga* *uri=ga*	*ari=tu* *uri=tu*	*ari* *uri*
3 人称・複数	*uttaa=ga* *attaa=ga*	*uttaa=ga* *attaa=ga*	*uttaa=tu* *uttaa=tu*	*uttaa* *attaa*

4.3　格の種類と機能[6]

津堅方言の格について，形態と主な機能を整理すると表 9 のとおりである。

以下，表 9 に挙げた格形式について、例文をあげつつ、その機能の概略を記述する。

4.3.1　主格（NOM）

自動詞主語 (3) と他動詞主語 (4) ともに基本的には *=ga* で表される。*=nu* は *uttu*（弟）などの非呼称の親族名称 (5)，*dusi*（友達）などの人間名詞 (6)，動物名詞 (7)，無生物名詞 (8) の場合には，*=ga/=nu* の両方が使用可能である[7]。また，述部が状態を表す場合では，無助詞で表されることもある (9)。

(3)　*hanako=ga*　　*NzjaN.*
　　ハナコ=NOM　　行く.PST1
　　ハナコが行った。

(4)　*hanako=ga*　　*taroo= ϕ*　　*tata-caN.*
　　花子=NOM　　太郎=ACC　　たたく-PST1
　　花子が太郎をたたいた。

[4] 無助詞については、「4.3.2 属格（GEN）」の記述を参照。
[5] （ ）は想定される形態であるが，未確認であることを表す。
[6] 本項は，又吉里美（2015）におけるデータや解釈に依拠して記述している。また，使用差や機能についての詳細は又吉里美（2007a），又吉里美（2007b），又吉里美（2006）を参照されたい。
[7] 例文翻訳調査では、これらの名詞に承接する場合の回答としては、*=nu* の方が第一回答として現れるが、*=ga* と *=nu* の使い分けについては検討課題であり、詳細な調査が必要である。

表 9　津堅方言の格形式（機能別一覧）

格	形態	機能
主格	*=ga/=nu/= ϕ*	自動詞主語，他動詞主語
属格	*=ga/=nu/(= ϕ)*	所有
対格	*= ϕ*	直接目的語
与格	*=ni*	受益者，ものの変化結果，関係，受身の動作主，使役の動作主，時間表示
方向格	*=si*[8]	移動の目標，移動の着点，変化結果，限界
共格	*=tu*	共同相手，比較対象
具格	*=si*	手段
奪格	*=kara*	起点，原料，移動の場所，移動手段
場所格 1	*=Nka*	存在の場所
場所格 2	*=Nzi/(=uti)*	出来事の場所
限界格	*=mari*	限界
比較格	*=juka*	比較

(5)　*uttu=nu*　*toor-ine*　*waa=ga*　*tasiki-i-N.*
　　弟=NOM　倒れる-COND　私=NOM　助ける-NPST-IND
　　弟が倒れたら私が助ける。

(6)　*rusi=nu*　*toor-ine*　*Nna=si*　*tasiki-ri=jo.*
　　友達=NOM　倒れる-COND　みんな=INST　助ける-IMP=SFP
　　友達が倒れたら，みんなで助けろよ。

(7)　*wattaa= ϕ*　*iN=nu*　*toor-ine*　*deezi*　*ja-gutu*[9]　*munu= ϕ*　*kirai=jo.*
　　私たち=GEN　犬=NOM　倒れる-COND　大変　COP-CSL　エサ=ACC　あげる.IMP=SFP
　　うちの犬が倒れたら大変だから，エサをあげろよ。

(8)　*uri*　*kaNbaN=nu*　*toor-ine*　*naraN-gutu*　*rippa*　*kuNcuki=jo.*
　　この　看板=NOM　倒れる-COND　ならない-CSL　きちんと　しばっておく.IMP=SFP
　　この看板がたおれたらいけないから，きちんとしばっておけよ。

(9)　*sooree= ϕ*　*u-u-gutu=jo.*

[8] 方向格の *=si* は，具格の *=si* とは由来が別だと考えられる。方向格の *=si* は，奄美・沖縄北部で聞かれる方向表示の機能を持つ [katɕi] [tɕi] などと由来を同じくすると考えられている。一方，具格の *=si* は「して」由来のものとして，たとえば，下記のように複数の研究者によって指摘される。
　ʃʃi は、國語のサ行變格の「せ」（se）の連用形「し」（ʃi）に，接續助詞「て」（te）の接合した「して」（ʃite）の轉訛したものであるらしい（金城 1944：134）。
　Qsi、si の出自は、動詞 suN（する）の接続形に由来する。…中略…動詞接続形 Qsi、si が助詞に転成したのである（野原 1998：60）。

[9] *gutu* は接辞と扱うべきか，接語と扱うべきかの分析が不十分である。ここでは，語幹に接続していると考えられる形の場合は，接辞として解釈しておく。

兄弟=NOM　　いる-NPST-CSL=SFP

兄弟がいるからね。

4.3.2　属格（GEN）

属格でも主格と同様に，*=ga* (10)，*=nu* (11)，無助詞の 3 つの形態が現れる。その使用差については未調査である。なお，無助詞で現れるのは「*wattaa*〈1 人称・複数（除外）・属格／私たちの〉」(12) の場合のほか，「私のもの」(13) という場合で，やや限定的であると考えられる。ただし，*waa=ga jaa*「私の家」のように *=ga* を伴うことが必要である場合もあり，無助詞で現れるパターンについては確認する必要がある。

(10)　*aree*　*taroo=ga*　*uttu=ru*　*ja-N=ro.*

彼.TOP　タロウ=GEN　弟=FOC　COP-IND=SFP

彼はタロウの弟だよ。

(11)　*kii=nu*　*pata=Nka*　*pana*　*sa-su-N.*

木＝GEN　枝＝LOC1　花　咲く-PROG1-IND

木の枝に花が咲いている。

(12)　*wattaa= ϕ*　*iN=nu*　*toor-ine*　*deezi*　*ja-gutu*　*munu= ϕ*　*kirai=jo.*

私たち=GEN　犬=NOM　倒れる-COND　大変　COP-CSL　エサ=ACC　あげる.IMP=SFP

うちの犬が倒れたら大変だから，エサをあげろよ。

(13)　*uree*　*waa= ϕ*　*muN*　*ja-ha.*

これ.TOP　私=GEN　もの　COP-IND

これは私のものであるよ。

4.3.3　対格（ACC）

対格は，無助詞で表され，目的語を標示する (14) (15) 機能を持つ。対応する述語と隣接していることが多いのも特徴的である。

(14)　*nuru= ϕ*　*kaak-ine*　*mizi= ϕ*　*num-u-N.*

喉=NOM　かわく-COND　水=ACC　飲む-NPST-IND

喉が渇いたら水を飲む。

(15)　*aNci*　*piihja-ta-riba*　*kooto= ϕ*　*ki-si*　*su-uta=muN.*

こんなに　寒い.ADJ -PST1-COND　コート=ACC　着る-SEQ　来る- PST2=SFP

こんなに寒いなら，コートを着て来たのに。（談話資料）

4.3.4 与格（DAT）

与格は，格の中でも最も機能に富んでいる。形態は=*ni* で現れ，主に，受益者 (16) (17) ものの変化結果 (18)，比較対象 (19)，受身の動作主 (20) (21)，使役の動作主 (22)，時間表示 (23) などを表す機能を持つ。また，「なる」に続く場合は，無助詞で表される (24)。

(16) *taroo=ja* *uttu=ni* *ziN=* *ϕ* *uku-ta-N.*
太郎=TOP 弟=DAT お金=ACC 送る-PST1-IND
太郎は弟にお金を送った。

(17) *kusaa=nu* *cuu=ni* *nama* *ka-tu-N=ro.*
後ろ＝GEN 人=DAT 今 貸す-PROG1-IND1=SFP
後ろの（家の）人に，今，貸しているよ。

(18) *taroo=ja* *mmu=* *ϕ* *taaci=ni* *wa-ita-N.*
太郎=TOP 芋=ACC 二つ=DAT 割る-PST2-IND
太郎は芋を二つに割っていた（割ったのを見たことを明示的に伝える文）。

(19) *heega* *ure* *simabananaa=ni* *nis-u-N=ro.*
だけど これ.TOP 島バナナ=DAT 似る-NPST-IND=SFP
だけど，これは島バナナに似ているよ。（談話資料）

(20) *iN=ni* *uur-at-ti=jo*（<*uur-ar-ti=jo* ） *reezi* *ja-ta-N.*
犬＝DAT 追う-PASS-SEQ=SFP 大変 COP-PST1-IND
犬に追われて大変だった。

(21) *nusuru=ga* *zjuNsa=ni* *kasimir-at-ta-N.*（<*kasimir-ar-ta-N* ）
泥棒=NOM 警察=DAT 捕む-PASS-PST1-IND
泥棒が警察に捕まえられた。

(22) *asa* *X=ni* *mut-a-u-waa.*
明日 人名=DAT 持つ- CAUS-NPST-IND
明日 X に持たせるよ。（談話資料）

(23) *suutaa=ja* *meenasi* *rukuzi=ni* *uki-* *ϕ* *-N.*
お父さん=TOP 毎日 六時=DAT 起きる-NPST-IND
お父さんは毎日，六時に起きる。

(24) *kaNkoku=nu* *hitu=tu* *miitu=* *ϕ* *na-ti=jo.*
韓国=GEN 人=COM 夫婦=DAT なる-SEQ=SFP
韓国の人と夫婦になってね。（談話資料）

4.3.5 方向格（ALL）

方向格は，=*si* で表され，移動の目標 (25) や着点を表すほか，変化の結果 (26) や =*kara* と呼応する形で限界 (27) を表す機能を持つ。

(25) *inagu=* ∅ *cu=nu jaa=si hee-ku ik-aN=ro.*
女=TOP 人=GEN 家=ALL 早い-ADVL 行く-NEG=SFP
（正月には）女は人の家へ早く行かないよ。

(26) *eN=si kirikae-ta-kutu ihwi ra-ta-N=ro.*
円=ALL 切り替える-PST1-CSL 少し COP-PST1-IND=SFP
（ドルから）円に切り替えたから，少しだったよ（談話資料）

(27) *hanako=kara ziroo=si unu jaa=Nzi suda-ti.*
花子=ABL 次郎=ALL この 家=LOC2 育つ-SEQ
ハナコからジロウまで，この家で育って。（談話資料）

4.3.6 共格（COM）

共格は，*=tu* で表され，動作の共同相手 (28) や共同関係 (29)，比較対象 (30) を表す機能を持つ。

(28) *taroo=ja uttu=tu asib-iNzja-N.*
太郎=TOP 弟=COM 遊ぶ-PROG2-IND
太郎は弟と遊んでいる。

(29) *kaNkoku=nu hitu=tu miitu=* ∅ *na-ti=jo.*
韓国=GEN 人=COM 夫婦=DAT なる-SEQ=SFP
韓国の人と夫婦になってね。（談話資料）(=(24))

(30) *waN=ja isiku=tu ni-su-N.*
私=TOP いとこ=COM 似る-PROG1-IND
私はいとこと似ている。

4.3.7 具格（INST）

具格は，*=si* で表され，手段を表す (31)。ただし，移動手段や空間性を有するものが手段となる場合には，それぞれ *=kara*，*=Nka* と別の形態をとることがある。これらは，奪格，場所格の方で提示する。

(31) *sabaki=si kaazi=* ∅ *sabak-i=be.*
櫛= INST 髪=ACC 梳け-IMP=SFP
櫛で髪を梳けよ。

4.3.8 奪格（ABL）

奪格は，*=kara* で表され，起点 (32)，原料 (33)，移動の場所 (34)，移動手段 (35)を表す機能を持つ。

(32) *tookjoo=kara ki-su-N.*
東京=ABL 来る-PROG1-IND
東京から来ている。

(33) *saataa=ja uuzi=kara suku-i-N=te.*
砂糖=TOP さとうきび=ABL 作る-NPST-IND=SFP
砂糖はさとうきびから作るさ。（談話資料）

(34) *ʔakkee ami+naka=kara ac-ci ki-si.*
DSC 雨+中=ABL 歩く-SEQ 来る-SEQ
アッケー，雨の中を歩いて来て。（談話資料）

(35) *zjuuzi=nu puni=kara si-sa-N=cuN.*
十時=GEN 船=ABL 来る-PST1-IND=QUOT
十時の船で来たって。（談話資料）

4.3.9 場所格（LOC1／LOC2）

場所格の形態として，*=Nka* と *=Nzi* の 2 つの形態が認められるが，基本的な機能として，*=Nka* は存在の場所 (36) を，*=Nzi* は出来事の場所 (39) を表し，機能を別にする。*=Nka* は存在の場所の他に，手段 (37) や変化結果 (38) を表す機能を持つ。*=Nzi* は出来事の場所の他に，限界 (40) を表す機能を持つ。また，*=Nzi* の他に *=uti* も出来事の場所 (41) を表すものとして使用されるが，使用頻度の印象としては*=Nzi* の方が一般的に使用される傾向がある。*=uti* については他方言からの影響の可能性を含めて検討する必要があると思われる。

(36) *ama=Nka takubui misje=nu a-i-je.*
あそこ=LOC1 二軒 店=NOM ある-INF-IND
あそこに二軒店があるよ。（談話資料）

(37) *nabi=Nka tak-u-N.*
鍋=LOC1 炊く-NPST-IND
鍋で炊く。（談話資料）

(38) *miici=Nka waki-ri.*
三つ= LOC1 分ける- IMP
三つに分けろ。（談話資料）

(39) *uma saNee=Nzi isa-ta-N=ba.*
そこの サンエー=LOC2 会う-PST1-IND=SFP
ここのサンエー（スーパーの名称）で会ったの？（談話資料）

(40) *nigatsu=nu zjuuninici=Nzi Nikwagetsu= ϕ na-ti.*
二月=GEN 十二日=LOC2 二ヶ月=DAT なる-SEQ
（手術してから）二月の十二日で二ヶ月になって。（談話資料）

(41) *sima=uti* *mmari-ti* *sima=Nka=ru* *uN=ro.*
島=LOC2 生まれる-SEQ 島=LOC1=FOC いる=SFP
島で生まれて，島にいるよ。（談話資料）

4.3.10 限界格（LIM）

限界格は，*=mari* で表され，空間的な限界 (42)，時間的な限界 (43) を表す機能を持つ。

(42) *ukibaru-gwaa=mari* *Nzj-u-N=cuN=jo.*
浮原島-DIM=TER 行く-NPST-IND= QUOT＝SFP
浮原島まで行くってよ。（談話資料）

(43) *jozi=mari* *asi-ri* *ki-su-N=ro.*
四時= TER 遊ぶ-SEQ 来る-PROG1-IND=SFP
四時まで遊んで来ているよ。（談話資料）

4.3.11 比較格（CMP）

比較格は，*=juka* で表され，比較基準 (44) (45) を表す機能を持つ。

(44) *waN=juka* *tiicee* *siizaa* *ra-ru.*
私= CMP 一つ.TOP 年上 COP-ADN
私より一つは上だよ。

(45) *misatokoogjoo=juka* *tuuwa…* *tuu-wa-N=ja.*
美里工業=CMP FIL 遠い-ADJ-IND=SFP
（今の職場は）美里工業より，〈FIL.トゥーワ…〉遠いね。（談話資料）

4.4 指示詞の体系と用法

津堅方言の指示詞は *u-*系と *a-*系の 2 形式のいわゆる二系列の体系である。ここでは，現場指示用法として，指示代名詞，場所指示代名詞，指示連体詞について記述する。まず，指示代名詞の体系を示すと下記の表のとおりである。

表 10　津堅方言の指示代名詞の体系

	近中称	遠称
指示代名詞	*uri*	*ari*
場所指示代名詞	*uma*	*ama*

4.4.1 指示代名詞

津堅方言の指示代名詞では，話し手近くのものを指す近称，聞き手近くの物や人を指す中称では *uri* を用い，話し手からも聞き手からも遠い物や人を指す遠称では，*ari* が用いられる。また，「話し手の近く」という認識については，視覚的に知覚している物だけでなく，話し手の後ろにあるなどして視覚的に知覚できなくても，「話し手の近く」にあるということがすでに認識されている場合を含んでおり，そのことが，例文 (49) から確認できる。

A-1 近称：話し手の近くの物や人（視覚的に知覚している）

(46) *uri=ϕ* *mi-i=be*
これ=ACC 見る-IMP=SFP
これを見なさい。

(47) *raaraa* *uri=Nka* *ii-ra=ja*
DSC これ=DAT 入れる-INT=SFP
ほらほら，これ（=袋）に入れようね。（談話資料）

(48) *ure* *na* *deNwacoo=kara* *tumeet-aku-ru=baate.*
これ.TOP DSC 電話帳=ABL 探す-PROG3-ADN＝SFP
この人（隣にいる夫を指す）は，ナ，電話帳で（電話番号を）探しているわけ。（談話資料）

A-2 近称：話し手の近くの物（何らかの情報によりすでに指示対象の位置を認識している）

(49) *uri=ϕ* *mi-i=be*
これ=ACC 見る-IMP=SFP
（話し手が話し手のすぐ後ろにある物を認識の上で指示して）これを見なさい。

B 中称：聞き手の近くの物や人

(50) *uri=ϕ* *misi-ri=be*
これ=ACC 見せる-IMP=SFP
これを見せなさい。

C 遠称：話し手からも聞き手からも遠い物や人

(51) *ari=ϕ* *mi-i=be*
あれ=ACC 見る-IMP=SFP
あれを見なさい。

また，*uri*，*ari* の形態は属格=ϕをともなって，「この」「あの」のように連体機能を有する[10]。指示代名詞と同様に近称，中称では *uri* が用いられ，遠称では，*ari* が用いられる。

[10] *uri/ari* は連体機能を有するが，属格=ϕが付属していると見なすかは検討課題である。本稿では，属格=ϕをともなった物として見なして記述する。なお，代名詞では一人称単数 *waa* および一人称複数（除外）*wattaa* で無助詞のパターンが見られる。これら代名詞の振る舞いと合わせて，属格=ϕの位置づけを考える必要があると思われる。

A 近称：話し手の近くの物や人

(52) *uri= ɸ* *pukuru=Nka* *iri-ri=be*
これ=GEN 袋=DAT 入れる- IMP=SFP
その袋に入れなさい。

(53) *uri= ɸ* *satsuu= ɸ* *gohjakueN* *taaci=tu* *kee-ti* *turah-aN=ga.*
これ=GEN お札=ACC 五百円 二つ=COM 変える-SEQ POL-NEG=Q
この札（を）五百円二枚と換えてくれませんか？（談話資料）

(54) *uri= ɸ* *mikaN=nu* *siiha-nu* *kam-ar-aN.*
これ=GEN 誰=NOM すっぱい-COND 食べる-POT-NEG
このミカンはすっぱくて食べられない。（談話資料）

(55) *uri= ɸ* *ziisaN=ga* *zeNbu* *tu-ti* *kis-u-ru*
これ=GEN じいさん=NOM 全部 取る-SEQ 来る-NPST-ADN
このじいさん（隣にいる夫を指す）が全部取ってきている。（談話資料）

B 中称：聞き手の近くの物や人

(56) *uri= ɸ* *pukuru=Nka* *iri-ri=be*
それ=GEN 袋=DAT 入れる- IMP=SFP
その袋に入れなさい。

C 遠称：話し手からも聞き手からも遠い物や人

(57) *ari= ɸ* *pukuru=Nka* *iri-ri=be*
あれ=GEN 袋=DAT 入れる- IMP=SFP
あの袋に入れなさい。

(58) *ari= ɸ* *pikidasi=Nka* *iituk-i=be*
あれ=GEN 引き出し=DAT 入れておく- IMP=SFP
あの引き出しに入れておきなさい。（談話資料）

(59) *ari= ɸ* *cu=ni* *kik-a=ja*
あれ=GEN 人=に 聞く- INT=SFP
あの人に聞こうね。

(60) *ari= ɸ* *karu=kara* *maga-ti* *ik-a=jaa*
あれ=GEN 角=ABL 曲がる-SEQ 行く-INT=SFP
あの角で曲がって行こうよ。

4.4.2 場所指示代名詞

場所指示代名詞は近称，中称では *uma*，遠称では *ama* の形態で用いられ，近称，中称で *uri*，遠称で *ari* が使用されるといった指示代名詞の用法と連動する。

A 近称：発言が行われる場所

(61) *uma=kara* *maga-ti* *ik-a=jaa*
ここ=ABL 曲がる-SEQ 行く-INT=SFP
ここで曲がって行こうよ。

B 中称：聞き手近くの場所

(62) *uma=kara* *maga-ti* *ik-i=bee*
そこ=ABL 曲がる-SEQ 行く- IMP=SFP
そこで曲がって行きなさい。

C 遠称：発言が行われる場所から離れた場所

(63) *ama=kara* *maga-ti* *ik-a=jaa*
あそこ=ABL 曲がる-SEQ 行く-INT=SFP
あそこで曲がって行こうよ。

4.4.3 指示連体詞

指示連体詞の形態は，指示代名詞と連動し，近称，中称では *unu*，遠称では *anu* となる。ただし，自然会話中では，指示連体詞 *unu/anu* の使用はあまり多くはなく，*uri= ϕ*，*ari= ϕ* の形態で連体機能として使用されることが多い。なお，指示代名詞の連体機能と指示連体詞の使用差については，(66) (67) の例文に見られるように修飾する指示物が単数なのか複数なのかが関わることがあるようだが，詳しく調査をする必要がある。また，*kunu* はほとんど聞かれないが，*kunumee* 「この前」という形態が見られる (68)。

(64) *je* *unu* *isu=Nka* *kusikaki-misoore.*
DSC この 椅子=LOC1 こしかける-POL.IMP
イェ，この椅子に腰掛けてください。（談話資料）

(65) *anu* *karu=kara* *maga-ti* *ik-a=jaa*
あの 角=ABL 曲がる-SEQ 行く-INT=SFP
あの角で曲がって行こうよ。

(66) *uri= ϕ* *hoN= ϕ* *kataziki-ri=be*
その=GEN 本=ACC 片付ける-IMP=SFP
その本（＝本は１冊）を片付けなさい。

(67) *unu* *hoN= ϕ* *kataziki-ri=be*
それらの 本=ACC 片付ける-IMP=SFP
それらの本（＝本は複数冊）を片付けなさい。

(68) *kunu* *mee=kara* *sjukka=ro.*
この 前=ABL 出荷=SFP

この前（＝先日）から（ニンジンの）出荷よ。（談話資料）

5. 動詞

ここでは，動詞について，以下の内容を記述する[11]。まず，動詞の基本構造として，5.1 節で動詞の語幹，5.2 節で定動詞の屈折，5.3 節で副動詞の屈折を記述する。続けて，構文論の視点から，5.4 節でヴォイス，5.5 節でアスペクトを記述する[12]。

5.1 動詞の語幹

活用のタイプは大きく規則変化と不規則変化に分けられ，さらに規則変化する動詞はクラス 1A，クラス 1B，クラス 2 A，クラス 2 B の 4 つに分けられる。クラス 1 は日本語標準語の母音語幹に対応し，クラス 2 は日本語標準語の子音語幹に対応する。

クラス 1A，クラス 1B ともに，動詞語幹が母音で終わるという共通する特徴を持つが，動詞の基本形において，クラス 1A の動詞では，非過去形において接辞 *-i* を欠く。ここでは，仮にクラス 1A の動詞の非過去接辞として-ϕ を設定しておく。

クラス 1A	*uki-* ϕ*-N*	クラス 1B　*koo-i-N*
	起きる-NPST-IND	買う-NPST -IND

なお，クラス 1A においても，もともとは非過去接辞 *-i* があり，*uki-i-N* だと考えられるが，変化の過程で *-i* が脱落したと考えられる。これは語幹末母音の i と非過去接辞 *-i* とが融合し，さらに短母音化した変化の結果だと考えられる。したがって，クラス 1A の元々の組成は，次のように考えられる。

クラス 1A	*uki-i-N*	→	*uki-N*
	起きる-NPST-IND		起きる-NPST.IND

以下，クラス 1A，クラス 1B の動詞の語幹と勧誘形，基本形，中止形の語例を表 11 に示す。

クラス 2A，クラス 2B ともに，動詞語幹が子音で終わるという共通する特徴を持つが，語幹のバリエーションの数が異なる。クラス 2A は 2 つ，クラス 2B は 3 つの語幹のバリエーションを持つ。タイプ 2A は勧誘形や基本形の語幹は変わらず，中止形において，いわゆる音便語幹となる。語幹末尾の音によって，m→r，k→s など規則的に音変化を生じさせる。たとえば，語幹末尾が m の「飲む（*num-u-N*）」「食べる（*kam-u-N*）」は，*num-u-N*／*nur-i*〈飲む／飲んで〉，*kam-u-N*／*kar-i*〈食べる／食べて〉のようになる。ただし，「見る（*m-*）」のように別の音便語幹を取る場合もあり，同じ語幹末の音でも音便語幹で複数のバリエーション生じる場合がある。

[11] 本節は，又吉里美（2015）の報告におけるデータや解釈に依拠して記述している。
[12] モダリティや待遇についても記述すべきであるが，未調査のため，整理が進んでいないため，今後の課題とする。

表 11　クラス 1 動詞の語幹

タイプ	語幹末	動詞	勧誘形	基本形	中止形（音便語幹）
クラス1A	i	酔う	*i-ra*	*i-* ϕ*-N*	*i-ti*
		起きる	*uki-ra*	*uki-* ϕ*-N*	*uki-ti*
		落ちる	*uti-ra*	*uti-* ϕ*-N*	*uti-ti*
		降りる	*uri-ra*	*uri-* ϕ*-N*	*uri-ti*
クラス 1B	u	売る	*u-ra*	*u-i-N*	*u-ti*
		掘る	*pu-ra*	*pu-i-N*	*pu-ti*
	o	買う	*koo-ra*	*koo-i-N*	*koo-ti*
		舞う	*moo-ra*	*moo-i-N*	*moo-ti*

一方，クラス2Bは語幹のバリエーションが3つとなる。「洗う（*ara-u-N*）」の語幹は，*arah-・ara-*／*ara-*／*arat-* である。ただし，勧誘形と基本形に見られる *ara-* は語幹 *arah-* の *-h* の弱化（脱落）だと考えられ，その結果として，語幹バリエーションが3つに増えていると見なせる。「洗う（*ara-u-N*）」の勧誘形では，*arah-a* と *ara-a* の2形態が現れているが，それは音声変化の段階が示されていると言えよう。2Bに分類される動詞にはこうした語幹末尾の音声変化によって，結果的に語幹のバリエーションが増えたものと思われる動詞が含まれるが，「*kaNz-u-N*（かぶる）」については，その音声変化がやや捉えにくい。変化過程などの詳しい調査が必要である。以下，クラス2A，クラス2Bの動詞の語幹と勧誘形，基本形，中止形の語例を表に示す。

表 12　クラス 2 動詞の語幹

タイプ	語幹末	動詞	勧誘形	基本形	中止形（音便語幹）
クラス2A	b	遊ぶ	*asib-a*	*asib-u-N*	*asir-i*
	m1	飲む	*num-a*	*num-u-N*	*nur-i*
		食べる	*kam-a*	*kam-u-N*	*kar-i*
	m2	見る	*m-a*	*m-u-N*	*Nc-i*
	n	死ぬ	*sin-a*	*sin-u-N*	*siz-i*
	k1	書く	*kak-a*	*kak-u-N*	*kas-i*
	k2	くびる	*kuNk-a*	*kuNk-u-N*	*kuNc-i*
	k3	行く	*ik-a*	*ik-u-N*	*Nz-i*
	g	漕ぐ	*kug-a*	*kug-u-N*	*kuz-i*
	h	落とす	*utuh-a*	*utuh-u-N*	*utuc-i*
クラス2B	h	洗う	*arah-a* *ara-a*	*ara-u-N*	*arat-i*
	t	持つ	*mut-a*	*mus-u-N* *muts-u-N*	*mus-i* *muc-i*
	r	かぶる	*kaNr-a*	*kaNz-u-N*	*kaNt-i*

最後に不規則変化動詞として「来る」「する」を以下に示す。

表 13　不規則変化動詞「来る」「する」の語幹

タイプ	動詞	勧誘形	基本形	中止形（音便語幹）
不規則変化	来る	*kuu*	*suN*	*kisi*
	する	*haa*	*huN*	*hii*

5.2　定動詞の屈折

文末終止形の形態として直説法では非過去形と過去形の肯否，希求法として意志形と命令形を提示し，屈折接辞の現れ方を示す。なお，表ではクラス 1A，クラス 2A で代表的に示すほか，不規則変化動詞の「来る」「する」を提示する。

表 14　定動詞の屈折

				クラス 1A 起きる	クラス 2A 飲む	不規則変化 来る	不規則変化 する
直説法	基本形	非過去形	肯定	*uki-(i)-N*	*num-u-N*	*suN*	*huN*
			否定	*uki-raN*	*num-aN*	*kuN*	*haN*
		過去形１	肯定	*uki-ta-N*	*nur-a-N*	*kis-a-N*	*s-a-N*
		過去形２	肯定	*uki-ita-N*	*num-uta-N*	*kis-uta-N*	*s-uta-N*
		過去形	否定	*uki-raN-ta-N*	*num-aN-ta-N*	*kuN-ta-N*	*h-aN-ta-N*
希求法	意志形			*uki-ra*	*num-a*	*kuu*	*haa*
	命令形			*uki-ri*	*num-i*	*kuu*	*hii*

(A) 非過去形（肯定／否定）

非過去形肯定の接辞は, クラス 1A/1B で *-i*, クラス 2A/2B で *-u* である。先にも述べたように，クラス 1A に分類した「起きる」は *uki-N* だが，もともとは非過去接辞 *-i* があり，*uki-i-N* だと考えられるが，ここでは-ϕ で示す。

クラス 1A　*uki-ϕ-N*　　クラス 2A　*num-u-N*
起きる-NPST-IND　　飲む-NPST-IND

クラス 1B　*koo-i-N*　　クラス 2B　*ara-u-N*
買う-NPST-IND　　洗う-NPST-IND

また，非過去形否定の接辞は，クラス 1A/1B で *-raN*，クラス 2A/2B で *-aN* である。クラス 1A/1B で *r* が現れるが，クラス 2A/2B では r が現れないという対応関係は一定の規則として意志形や命令形の接辞でも同様に見られる。

クラス 1A	*uki-raN*	クラス 2A	*num-aN*
	起きる-NEG[13]		飲む-NEG
クラス 1B	*koo-raN*	クラス 2B	*ara-aN*
	買う-NEG		洗う-NEG

(B) 過去形（肯定／否定）

過去形肯定の接辞はその文法的意味によって 2 つの形態が現れる。第 1 過去形は，基本的な機能として，発話時より前の出来事を表すが，第 2 過去形と違って，直接に体験・知覚したことや目撃性の意味は必ずしも含まれない。第 1 過去形では完成性を表す他に，過去の反復・習慣なども表す。一方，第 2 過去形では，知覚したこと，すなわち，目撃性を伴った発話時より前のできごとを表したり，直接に体験したことの思い出しを表したりする文について用いられる。

第 1 過去形の接辞は，クラス 1A/1B で *-ta*，クラス 2A/2B で *-a* である。ただし，第 1 過去形の接辞 *-a* をとるときのクラス 2A/2B の語幹は音便語幹である。

クラス 1A	*uki-ta-N*	クラス 2A	*nur-a-N*
	起きる-PST1-IND		飲む-PST1-IND
クラス 1B	*koo-ta-N*	クラス 2B	*arat-a-N*
	買う-PST1-IND		洗う-PST1-IND

第 2 過去形の接辞は，クラス 1A/1B で *-ita*，クラス 2A/2B で *-uta* である。非過去形肯定の接辞において，クラス 1A/1B で *-i*，クラス 2A/2B で *-u* の違いがあったが，第 2 過去形の接辞の先頭音においても同様に音声的な違いが現れる。

クラス 1A	*uki-ita-N*	クラス 2A	*num-uta-N*
	起きる-PST2-IND		飲む-PST2-IND
クラス 1B	*koo-ita-N*	クラス 2B	*arah-uta-N*
	買う-PST2-IND		洗う-PST2-IND

また，過去形否定は「語幹-NEG-PST1-IND」の構成となる。クラスにかかわらず，過去形否定で現れる過去接辞は *-ta* である。過去接辞に先行する否定接辞においてクラス 1A/1B で *-raN*，クラス 2A/2B で *-aN* の違いが生じている。

クラス 1A	*uki-raN-ta-N*	クラス 2A	*num-aN-ta-N*
	起きる-NEG-PST1-IND		飲む-NEG-PST1-IND
クラス 1B	*koo-raN-ta-N*	クラス 2B	*ara-aN-ta-N*
	買う-NEG-PST1-IND		洗う-NEG-PST1-IND

[13] 「*uki-raN*（起きる-NEG）」と否定を表す*-raN* は，通時的な成立過程を踏まえながら，その内部構造を分析する必要があるが，現段階では十分な分析ができていない。ここでは，肯定形の「*uki-φ-N*（起きる-NPST-IND）」に合わせて「*uki-raN*（起きる-NEG.NPST.IND）」と見なしておきたい。ただし，グロスは，煩雑になるため，「*uki-raN*（起きる-NEG）」のように「-NEG」のみを記し，「NPST.IND」は省略する。

(C) 意志形

意志形の接辞は，クラス 1A/1B で *-ra*，クラス 2A/2B で *-a* である。クラス 1A/1B で r が現れるが，クラス 2A/2B では r が現れない。

クラス 1A	*uki-ra*	クラス 2A	*num-a*
	起きる-INT		飲む-INT
クラス 1B	*koo-ra*	クラス 2B	*ara-a*
	買う-INT		洗う-INT

(D) 命令形

命令形の接辞は，クラス 1A/1B で *-ri*，クラス 2A/2B で *-i* である。先の命令形と同じくクラス 1A/1B で r が現れるが，クラス 2A/2B では r が現れない。なお，命令形では，*num-i= be* のように命令形専用の終助詞 *=be* を付すことが多く，*=be* をつけると命令形接辞で言い終わるよりもやわらかなニュアンスになる。

クラス 1A	*uki-ri*	クラス 2A	*num-i*
	起きる-IMP		飲む-IMP
クラス 1B	*koo-ri*	クラス 2B	*arah-i*
	買う-IMP		洗う-IMP

5.3 副動詞の屈折

副動詞の屈折として，クラス 1B とクラス 2A の形態を代表的に下記表に示す。

表 15　副動詞の屈折

	クラス 1B（*tuiN* 取る）	クラス 2A（*jumuN* 読む）
不定形	*tu-i*（取り-）	*jum-i*（読み-）
中止形	*tu-ti*（取って）	*jur-i*（読んで）
同時形	*tu-igisana*（取りながら）	*jum-igisana*（読みながら）
並列形	*tu-tui*（取るし）	*jum-ui*（読むし）
条件形 1	*tu-riba*（取れば）	*jum-iba*（読めば）
条件形 2	*tu-i-ne*（取れば）	*jum-i-ne*（読めば）
譲歩形	*tu-tiN*（取っても）	*jur-iN*（読んでも）
目的形	*tu-i-ga*（取りに）	*jum-i-ga*（読みに）

5.4 ヴォイス

ヴォイスとして，受身と使役を取り上げる。ここでは，クラス 1B，クラス 2A の動詞で代表的に見ていく。受身，使役ともに専用の接辞を持ち，受身は接辞 *-rar/-ar* を，使役は接辞 *-rah/-ah*

を付加することによって作られる[14]。動詞の屈折形態論における非過去形や命令形の接辞の現れ方と同様にクラス 1B では r が現れるが，クラス 2A では r は現れない。

受身

クラス 1B	*tu-rar-u-N*	クラス 2A	*jum-ar-u-N*
	取る-PASS-NPST-IND		読む-PASS-NPST-IND
	取られる		読まれる

使役

クラス 1B	*tu-rah-u-N*	クラス 2A	*jum-ah-u-N*
	取る-CAUS-NPST-IND		読む-CAUS-NPST-IND
	取らせる		読ませる

ただし，受身接辞 *-rar/-ar*，使役接辞 *-rah/-ah* の末尾音の r や h の音は，音変化や弱化を起こしやすく，中止形や命令形の形をとったり，後続するテンス接辞が後続したりするときには，同化（例文 (69) (70) (71)），脱落（例文 (72) (73)），音変化（例文 (74) (75)）などが生じる。

(69) *iN=ni* *uu-rat-ti=jo*（< *uu-rar-ti=jo* ） *reezi* *ja-ta-N.*
犬＝DAT 追う-PASS-SEQ=SFP 大変 COP-PST1-IND
犬に追われて大変だった。

(70) *nusuru=ga* *zjuNsa=ni* *kasimi-rat-ta-N.*（< *kasimi-rar-ta-N* ）
泥棒=NOM 警察=DAT 捕む-PASS-PST1-IND
泥棒が警察に捕まえられた。

(71) *uri= ɸ* *zjuusu* *wanuN* *num-i-bu-sa-ta-iga.*
これ=GEN ジュース 私.ADD 飲む- INF-欲しい-ADJ-PST1-ADVRS
siizja=ni *num-at-ta-N.*（< *num-ar-ta-N* ）
兄=DAT 飲む-PASS-PST1-IND
このジュース，私も飲みたかったけど，兄に飲まれた。

(72) *uri= ɸ* *hoN= ɸ* *ʔjaa=ga* *kkwa=ni* *jum-a-i=be.*（< *jum-ah-i=be* ）
これ=GEN 本=ACC あなた=GEN 子ども=DAT 読む-CAUS-IMP=SFP
この本をあなたの子どもに読ませなさい。

(73) *uri= ɸ* *warabi=ni* *hoN= ɸ* *jum-a-aN=ga.*（< *jum-ah-aN=ga* ）
これ=GEN 子ども=DAT 本=ACC 読む-CAUS-NEG=Q
この子どもに本を読ませないか（＝読ませなさい）。

[14] 受身形や使役形の活用クラスを明示する必要があるが，活用クラスの詳細については未調査のため，今後の課題とする。

(74) *mmaga=ni* *ziN=* *ϕ* *i-ra-ca-N.*（< *i-rah-ta-N* ）
孫=DAT お金=ACC 得る-CAUS-PST1-IND
孫にお小遣いを得させた（＝あげた）。

(75) *ikigwaN-gwa=ni* *juubiNkjoku=si* *jar-a-ca-N.*（< *jar-ah-ta-N* ）
息子-DIM=DAT 郵便局=ALL 遣る-CAUS-PST1-IND
息子を郵便局に行かせた（＝行ってもらった）。

5.5 アスペクト

アスペクトとして，特に継続相の形態について記述する。まず，クラス 1B，クラス 2A の動詞で代表的に完成相と継続相の形態を整理すると下記の表のとおりである。

表 16 クラス 1B 動詞「*puiN*（降る）」のアスペクト

		非過去	過去	
			第1過去	第2過去
完成相	1B	*pu-i-N* 降る-NPST-IND	*pu-ta-N* 降る-PST1-IND	*pu-ita-N* 降る-PST2-IND
	2A	*num-u-N* 飲む-NPST-IND	*nur-a-N* 飲む-PST1-IND	*num-uta-N* 飲む-PST2-IND
継続相	1B	*pu-tu-N* 降る-PROG1-IND	*pu-tu-ta-N* 降る-PROG1-PST1-IND	
		pu-iNzja-N 飲む-PROG2-IND	—	
	2A	*nur-u-N* 飲む-PROG1-IND	*nur-u-ta-N* 飲む-PROG1-PST1-IND	
		num-iNzja-N 飲む-PROG2-IND	—	

継続を表す接辞には，*-tu*/*-u* と *-iNzja* の 2 つの形態がある[15]。*-iNzja* の後に過去接辞を取る形式は確認できていない[16]。両形の差異はおおむね次のように整理できる。*-tu/-u* は，前接続する動詞の性質に応じて，「痕跡等の証拠から動作行為が行われていることを述べる」「結果継続（変化の結果）を表す」などの意味機能を持つ。一方，*-iNzja* は，「動作継続を表す」意味機能を持つが，実際に見たり聞いたりするなどしてその動作行為を認知していることがその背後にある

[15] その他に動詞「*akkuN*（歩く）」が接辞化して，「*nur-aku-N*／飲む-PROG3-IND（飲んでいる）」のように継続を表す形態も見られるが，ここでの詳しい記述は省略する。
[16] 「（酒を飲んでいるのを見たのを思い出して）さっきお父さんは酒を飲んでいた」という場合は「*namagwaa otoo=ja saki=φ num-uta-N*」となり，第 2 過去の形式で表される。

場合が多い。特に①の主体動作動詞の場合，*-tu/-u* でも実際に見たり聞いたりなどした動作継続を述べることも可能のようだが，*-iNzja* を使用することが使用実態としては一般的である。

表 17　継続相非過去の 2 つの形態と機能

	-tu / -u（PROG1）	*-iNzja*（PROG2）
①主体動作動詞[17]	痕跡等の証拠から動作行為が行われている／行われたことを表す	動作継続を表す
②主体変化動詞	結果継続（変化の結果）を表す	動作継続を表す
③主体動作客体変化動詞	結果継続（変化の結果）を表す	動作継続を表す
①～③共通	反復，習慣，経験	―

①主体動作動詞

主体動作動詞において，*-tu/-u* と *-iNzja* の両形は，証拠性や目撃性によってその使用の使い分けが生じていると考えられる。*-tu/-u* は，特に痕跡等による証拠から動作行為が行われていることを述べる。*-iNzja-N* は，実際に見たり聞いたりするなどして動作行為（の継続）を認知して述べる。ただし，実際に動作行為を知覚している場合にとどまらず，例文 (80) のように当該の動作行為の継続を想像して述べるような場合にも使用することができる。動作継続の意味をより本質的に持っているのは *-iNzja* の方だと考えられる。

(76) *ottoo=ja* *saki=ru* *nur-u-N=tee.*
お父さん=TOP 酒=FOC 飲む-PROG1-IND=SFP
お父さんは酒を飲んでいるね（顔が赤いのを見て）。（動作継続〈証拠〉）

(77) *taroo=ja* *mata* *nas-u-N=tee.*
太郎=TOP また 泣く-PROG1-IND=SFP
（頬に涙の跡があったり目を腫らしたりしているのを見て）太郎はまた泣いているね。
（動作継続〈証拠〉）

(78) *ottoo=ja* *saki=ru* *num-iNzja-N.*
お父さん=TOP 酒＝FOC 飲む- PROG2-IND
（目の前でお父さんが酒を飲んでいるのを見て）お父さんは酒を飲んでいる。
（動作継続〈知覚〉）

(79) *taroo=ga* *nak-iNzja-N.*
太郎=NOM 泣く-PROG2-IND
（太郎が泣いているの見て）太郎が泣いている。（動作継続〈知覚〉）

[17] 動詞の分類については，工藤真由美（2004）の分類に従っている。

(80) *namaguro* *ottoo=ja* *saki= ∅* *num-iNzja-N=te.*
今頃 お父さん=TOP 酒=ACC 飲む-PROG2-IND=SFP
（酒を飲んでいる最中なのを想像して）今頃，お父さんは酒を飲んでいるよ。

②主体変化動詞

主体変化動詞において，*-tu /-u* と *-iNzja* の両形は，結果継続（変化の結果）を表すか，動作継続を表すかよってその使用の使い分けが生じていると考えられる。「消える（*keeiN*）」に各接辞を接続させた *kee-tu-N* と *kee-iNzja-N* は (81) と (83) の例文でその違いが確認できる。(81) は，ある時点で「（火が）消える」という変化が生じ，*kee-tu-N* は，「（火が）消えている」という変化の結果継続であることが表されている。一方，(83) は，蝋燭が複数あり，それらの蝋燭の火が「消える」という変化が次々と起こっている連続的な動きを *kee-iNzja-N* は表している。1 つの蝋燭に生じる瞬間的な変化と複数の蝋燭に生じる連続的な変化という主体の数の違いはあるが，アスペクト的な観点で見れば，結果継続（変化の結果）と動作継続の違いとして捉えることができる。

(81) *pii=ja* *buru* *kee-tu-N=ro.*
火=TOP 全部 消える-PROG1-IND=SFP
火は全部消えているよ。（結果継続）

(82) *unu* *hoNdana=Nka* *narar-u-ru* *hoN=ja* *musika-sa-N.*
この 本棚=LOC1 並ぶ-PROG1-ADN 本=TOP 難しい-ADV-IND
ここに並んでいる本は難しい。（結果継続）

(83) *roosoku=nu* *tsugitsugi=tu* *kee-iNzja-N*
蝋燭=NOM 次々=と 消える-PROG2-IND
（横並びにあるなど複数の蝋燭が次々消えるような場面で）蝋燭が次々と消えている（消えていく）。（動作継続）

(84) *mmee=ja* *pataki=si* *ik-iNzja-N*
おじいさん=TOP 畑=ALL 行く-PROG2-IND
おじいさんは畑に行きつつある（行く途中である）。（動作継続）

③主体動作客体変化動詞

主体動作客体変化動詞においても，先に見た主体変化動詞の場合と同じく，*-tu /-u* と *-iNzja* の両形は，結果継続（変化の結果）を表すか，動作継続を表すかよってその使用の使い分けが生じていると考えられる。たとえば，「切っている」には *kituN*（*-tu /-u* 形）と *kiNzjaN*[18]（*-iNzja* 形）の両形が見られる。切ってしまった変化の結果，すなわち結果継続を表す場合には *kituN* となり，

[18] *ki-Nzja-N* の i は脱落していると考えられる。母音動詞であるクラス 1A の「起きる *uki-(i)-N*」において非過去接辞の *-i* が脱落していることと同様の現象と考えられる。

今，切っている最中である動作継続は *kiNzjaN* となる。すなわち結果継続か動作継続の最中かで使用差が出る。

(85) *kinuu* *ammaa=ja* *iibi= ϕ* *ki-tu-N=ro.*
昨日 お母さん=TOP 指=ACC 切る-PROG1-IND=SFP
昨日，お母さんは，指を切っているよ。（結果継続）

(86) *suu=ja* *wanu* *miigiN= ϕ* *ki-su-N.*
今日=TOP 私.TOP 新しい服=ACC 着る-PROG1-IND
今日は，私は新しい服を着ている。（結果継続）

(87) *ammaa=ja* *nama* *suika= ϕ* *ki-Nzja-N.*
お母さん=TOP 今 すいか=ACC 切る-PROG2-IND
お母さんは今，スイカを切っている。（動作継続の最中）

(88) *nama* *kiN= ϕ* *ki-Nzja-N.*
今 服＝ACC 着る-PROG2-IND
今服を着つつある（着ている途中である）。（動作継続の最中）

(89) *suu=ja* *wanu* *miigiN= ϕ* *u-iNzja-N*
今日=TOP 私.TOP 新しい服=ACC 着る-PROG2-IND
今日は，私は新しい服を着ている。（結果継続）

(90) *hanako=ja* *nama* *jasee= ϕ* *u-iNzja-N.*
花子=TOP 今 野菜=ACC 売る-PROG2-IND
花子は今，野菜を売っている。（動作継続の最中）

反復，習慣，経験

さらに，*-tu/-u* 形は反復，習慣，経験などを表すこともできる。*-iNzja* 形では，この用法はほとんど見られない。主体動作動詞において，*-tu/-u* は痕跡等の証拠から動作行為が行われていることを表すことを指摘した。それは動作継続を即時的に捉えて言い表しているのではなく，過去に生じた動作継続（あるいは動作の成立）を表していると言える。そういう意味でいえば，反復，習慣，経験も当該動作は過去に 1 回以上成立しており，*-tu/-u* が表すのは過去に何かしらの動作が成立していることの影響が発話時点まで継続されていることだとも言えよう。それに対して *-iNzja* 形は，即時的に認識した動作継続を表すという機能である。それは，*-iNzja* 形が「今」のような時間副詞と共起するところからも考えられる（例文(87) (88)）。全体的に見れば，*-tu/-u* は過去に成立した動作の影響の継続を表し，*-iNzja* 形は，即時的な動作継続を表すとまとめられる。

①主体動作動詞

(91) *meenasi* *ami= ϕ* *pu-tu-N=ja.*
毎日 雨=NOM 降る-PROG1-IND=SFP

毎日雨が降っている。（出来事の反復）

(92) *arere* *ami= ϕ* *pu-iNzja-N.*
あれれ 雨=NOM 降る-PROG2-IND
あれあれ雨が降っている（実際に雨が降っているのを見て）。（出来事の継続〈知覚〉）

②主体変化動詞

(93) *unu* *misje=sje* *meenasi* *ki-su-N.*
その 店=ALL.TOP 毎日 来る-PROG1-IND
その店には毎日来ている。（反復・習慣）

(94) *unu* *masija=si=ja* *saNkai=guree* *ki-su-N=ro.*
この 店=ALL=TOP 三回=RST.TOP 来る-PROG1-IND=SFP
この店に三回くらいは来ているよ。（経験）

③主体動作客体変化動詞

(95) *meenasi* *suika= ϕ* *ki-tu-N=ro.*
毎日 すいか＝ACC 切る-PROG1-IND=SFP
毎日，すいかを切っているよ。（反復・習慣）

(96) *anu* *masija=ja* *Nkasi=kara* *tabako= ϕ* *u-tu-N.*
あの お店=TOP 昔=ALL たばこ=ACC 売る-PROG1-IND
あのお店は，昔からたばこを売っている。（反復・習慣）

5.6 コピュラ

津堅方言のコピュラ動詞の屈折を表 18 に示す。津堅方言のコピュラは *ja* で，コピュラの直接・否定形は存在動詞の「ある」の規則的な否定形（つまり、*naN* ではなく、*araN*）がコピュラの否定形を補充している。

表18 コピュラの屈折接辞

機能		コピュラの屈折接辞	
		非過去	過去
直説	肯定	*ja-N*	*ja-ta-N*
	否定	*a-raN*	*a-raN-ta-N*
連体		*ja-ru*	*ja-ta-ru*
理由		*ja-gutu*	*ja-ta-gutu*
条件		*ja-riba*	*ja-ta-riba*

(97) *asaa* *jasumi* *ja-N=ro*
明日.TOP 休み COP-IND=SFP
明日は，休みだよ。

6. 形容詞

ここでは，形容詞について，以下の内容を記述する。6.1 節で形容詞の基本構造，6.2 節で形容詞の用法を述べる。形容詞の用法では，名詞修飾，述語 ，否定，軽動詞との組み合わせ，連用修飾に分けて記述する。

6.1 形容詞の基本構造

津堅方言の形容詞の基本形語尾の多くは *-haN* で現れる。ただし，*jassaN*（安い），*wassaN*（悪い）などは *-saN* 語尾で現れる。*-saN* 語尾は前部の音が促音の場合に現れると考えられる。津堅方言の形容詞は，「形容詞語根−形容詞化接辞−ある」で構成されていると考えられる。さらに形容詞化接辞部分における音声変化（*sa* → *ha*）や語根と形容詞化接辞の接続部分での音変化（*jasu-sa* → *jassa*）が生じて *takahaN*（高い）や *jassaN*（安い）となったと考えられる。

takahaN(高い)
taka-sa-aN → *taka-ha-aN*
高い−形容詞化接辞−ある

jassaN(安い)
jasu-sa-aN → *jas-sa-aN*
安い−形容詞化接辞−ある

したがって，語構造は，語根 *-ha/sa-aN*（存在動詞「ある」）の構造をとり，語根 *-ha/sa* が活用の語幹として位置づけられる。さらに，*h* が脱落し，前部の母音が長母音化した形で現れたり，*h* が *w* に変化して現れたりすることがある。特に，*-haN* の前部が *a* の場合に，*h* が脱落しやすい傾向が見られる。たとえば，*amahaN*~*ama(a)N*（あまい），*karahaN*~*kara(a)N*（からい），*apahaN*~*apa(a)N*（うすい）などである。また，*-haN* の前部が *u* の場合には，*h* が *w* に音変化するものが見られる。たとえば，*tuuhaN*~*tuuwaN*（とおい），*masuzuuhaN*~*masuzuuwaN*（しおからい）などが見られる。*h* が脱落した形や *waN* の形は *-haN* の形と混在しており，音韻変化の過程にあると考えられる。したがって，これらの形容詞基本形語尾は *-haN* として取り扱う。

6.2 形容詞の屈折接辞

「*peehaN*（早い）」を語例として，形容詞化接辞に後接する屈折接辞を表 19 に示す。

表 19　形容詞の屈折接辞

機能	形容詞の屈折接辞	
	非過去	過去
直説（肯定）	*pee-ha-N*[19]	*pee-ha-ttaN*
推量	*pee-ha-igisa-N*[20]	―
連体	*pee-ha-ru*	*pee-ha-tta-ru*
理由	*pee-ha-gutu* *pee-ha-nu*	*pee-ha-tta-gutu* ―
条件	*pee-ha-riba*	*pee-ha-tta-riba*
並列	*pee-ha-i*	―

6.3　形容詞の用法

6.3.1　名詞修飾

連体修飾用法になる形態は，語幹に接辞 *-ru* をつけて作られ，名詞を修飾する。

(98)　*sura-a-ru*　*tui=nu*　*tiN=kara*　*tur-aku-N=ro*　*je.*
美しい-ADJ -ADN　鳥=NOM　天=ABL　飛ぶ-PROG3-IND=SFP　DSC
きれいな鳥が空を飛んでいるよ，ほら。

6.3.2　述語

述語形式として，終止形・感嘆法および断定形に分けられる。終止形感嘆法は文の終止に用いられ，主に話し手の驚きや感動など詠嘆的な意味を表す形式で，ハ語幹形，*-ru* 形，*-i* 形，*-nu* 形，*-muN* 形がある。

(99)　*ari=ja*　*karada=nu*　*joo-ha=je.*
あれ=TOP　体＝NOM　弱い-ADJ =SFP
あれは，体が弱くてね。（談話資料）

(100)　*uri= ϕ*　*saa*　*aNci*　*usu-ha-ru.*
これ=GEN　お茶　こんなに　薄い-ADJ-ADN
このお茶はこんなに薄いことよ。

(101)　*suu=nu*　*saa=nu*　*suu-ha-i=jona.*
今日=GEN　お茶=NOM　強い（濃い）-ADJ-INF=SFP

[19] 直接・否定形は，語根-*ku* に「*naN*（ない）」をつけて「*pee-ku-naN*（非過去）／*pee-ku-naN-taN*（過去）」となる。
[20] 対応する過去形として「*pee-ha-igisa-tta-N*」が考えられるが，当該形式は確認できていない。なお，推量は「*pee-ha-ru hazi*／*pee-ha-tta-ru hazi*」で一般的には表される。

今日のお茶の濃いことよ。

(102) *age* *jagama-ha-nu.*
感動詞 うるさい-ADJ-EMP
あぁ，うるさい。

(103) *X=Nka* *waka-a-muN=na.*
人名＝ヨリ 若い-ADJ-EMP=SFP
（孫が描いた A さん（70 代）は）X（孫）より若いね。
（＝若く描かれているんじゃないの）？（談話資料）

断定形では過去と非過去との対立が現れる。過去形には *-ta* が接続するが，*-hattaN* と *-ta* の前で促音化して発音されることが多い。また，*-saN* 語尾も *-saN* と *-sataN* とで対立する。

(104) *uri= ɸ* *saa* *suu-ha-N=roohja.* *nahwiN* *juu= ɸ.*
これ=GEN お茶.TOP 強い（濃い）-ADJ-IND=SFP もう少し お湯=ACC
ii-ti *kuu=be.*
入れる-SEQ 来い.IMP =SFP
このお茶は濃いよ。もうちょっとお湯入れてきなさい。

(105) *tuunaa=tu* *uri=tu* *ii-ti* *maa-hat-ta-N.*
ツナ=COM これ=COM 入れる-SEQ おいしい-ADJ-PST1-IND
ツナとこれと入れておいしかった。（談話資料）

(106) *kinuu=ja* *jasai=ga* *jas-sa-ta-N=ro.*
昨日=TOP 野菜=NOM 安い-ADJ-PST1-IND =SFP
昨日は野菜が安かったよ。（談話資料）

6.3.3 否定

否定の形にする場合は，「語根-*ku-na-N*」の形式にする。

(107) *uree* *maa-ku-na-N.*
これ.TOP おいしい-ADVL ない-IND
これはおいしくない。

(108) *iiN* *isuna-ku-na-N.* *pima* *ja-haa.*
いいや 忙しい-ADVL-ない-IND 暇 COP-IND
いいや。忙しくない。暇だよ。

6.3.4 軽動詞との組み合わせ

「語根-*ku*」のク形に続く形式と「ハ語幹」の形式が用いられる。「ハ語幹」の形式は，一見すると「語根＋補助的な動詞」の形に見えるが，「*ha* 語幹＋補助的な動詞」の構造と考えられる。

津堅方言の形容詞の多くが *ha* 語幹であり，*h* の脱落や後続の音との融合する音変化の現象がよく見られる。元は *ha* 語幹であったと考えられる痕跡は軽動詞の前部に現れる長音部分（*isunaa si, iibaa a-ra-hazi=ro*）に現れていると考える。

ところで，「ハ語幹 *huN*(*~suN*)」の形式は，*isunaa si*「忙しくする＝忙しい」という自己の状態を表すこともあるが，*pazikaha suN*「恥ずかしがる」，*uturuha si*「恐がって」のように，第三者の感情を表現する「～がる」の意味を付加させることができる。

(109) *sikaraa-ku* *na-tu-iga* *naa* *Nzi* *Nzi-ri=jo.*
寂しく-ADVL なる -PROG1- ADVRS DSC 意地 出す-IMP =SFP
寂しくなったが，もう，意地だしなさいよ[21]

(110) *wanu* *isuna-a* *si* *juku-i-ru* *pima* *na-ana=jo.*
私.TOP 忙しい-ADJ する.SEQ 休む-NPST-ADN 暇 ない-SEQ =SFP
私は忙しくして，休む暇なくてね。（談話資料）

(111) *uri= ϕ* *warabe* *pazika-ha* *suN.*
これ=GEN 子ども,TOP 恥ずかしい-ADJ する.IND
この子は，恥ずかしがっている。

(112) *amarikaa=ja* *iiba-a* *a-ra* *hazi=ro.*
あのあたり=TOP 狭い-ADJ ある-INFER INFER =SFP
あのあたりは，狭いことだろうよ．（談話資料）

6.3.5 連用修飾

動詞や形容詞を修飾する用法（連用修飾）は「語根-*ku*」の形式をとる。

(113) *inagu* *cu=nu* *jaa=si* *hee-ku* *ik-aN=ro.*
女 人=GEN 家=ALL 早い-ADVL 行く-NEG =SFP
（正月には）女(は)人の家に早く行かないよ。（談話資料）

(114) *cibiraasi-ku* *ac-cu-N=ja.*
すばらしく-ADVL 歩く-PROG1-IND =SFP
すばらしく歩いているね（歩き方が美しい）。

7. とりたて助詞

ここでは，とりたて助詞として，*=ja*，*=N*，*=ru* を取り上げて基本的な機能を記述する。

[21] 家族が亡くなった人に，くじけずに励みなさいよと声かける時の言い方。

7.1 主題表示（*=ja*）

とりたての *=ja* は，形態としては，*=ja* として現れる (115) ほか，前部の音と融合する形態も見られる (116)。また，格の後に配することもできる (117)。意味としては主題提示 (115) (116)や対比などがある (118)。

(115) *cu=ja* *Nna* *sin-u-N.*
人=TOP 皆 死ぬ-NPST-IND
人は皆死ぬ。

(116) *uree* *seekjoo=kara* *koo-ta-ru* *muN=ro.*
これ.TOP 生協=ABL 買う-PST1-ADN もの=SFP
これは，生協から買った物よ。（談話資料）

(117) *kai=ni=ja* *Nna-gwa=ci* *i-N=baajo.*
貝=DAT=TOP 貝-DIM=QUOT 言う-NPST.IND=SFP
貝には「ンナグヮー」と言うわけよ。

(118) *waN =ja* *ʔjuu= ϕ* *koo-ti* *rusi=ja* *sisi= ϕ* *koo-ta-N.*
私=TOP 魚=ACC 買う-SEQ 友達=TOP 肉=ACC 買う-PST1-IND
私は魚を買って，友達は肉を買った。

7.2 添加（*=N*）

=N は，同類のものが加える累加として主に用いられる。(119) のように累加される複数の要素に *=N* がついて同類のものが明示される場合もあれば，(120) のように累加される要素のみに *=N* がつく場合もある。

(119) *ruu=N* *waraba-taa=N* *kam-aN-kutu* *uri= ϕ* *sjooga= ϕ*
自分=ADD こども-PL=ADD 食べる-NEG-CSL これ=GEN 生姜=ACC
iri-ti *waa= ϕ* *nis-uta-kutu*
入れる-SEQ 私=NOM 煮る-PST2-CSL
uttaa *mata* *kam-ar-u-N=baajo.*
彼ら= ϕ また 食べる-PASS-NPST-IND=SFP
自分も子どもたちも（豚の血の炒め物は）食べないから，この生姜入れて私は煮たから，彼らは，また食べられるわけよ。（談話資料）

(120) *wanuN* *tu-tu-wa* *uri= ϕ* *jakuruto.*
私. ADD 取る-PROG1-IND これ=GEN ヤクルト
私も取っているよ，このヤクルト。（談話資料）

7.3　焦点表示（*=ru*）

日本語の古語の係助詞「ぞ」に対応するものが琉球諸方言ではよく用いられている。津堅方言でも *=ru* の形態で用いられている。古語では，文末は係り結びとして連体形で現れるのが一般的だとされるが，津堅方言の場合は必ずしも連体形であるとは限らない。連体形 (121) (122) のほか，（いわゆる）終止形 (123) のいずれの形態も見られる。また，*=ru* は，疑問詞疑問文への応答焦点 (124)，対比焦点 (125) に用いられる。

(121) *nama=kara=ru*　　*suika= ϕ*　　*ki-i-ru.*
今=ABL=FOC　　スイカ=ACC　　切る-NPST-ADN
これからスイカを切る。

(122) *sima=nu*　　*kutu*　　*ari=ga=ru*　　*buru*　　*waka-i-ru.*
島=GEN　　こと　　あれ=NOM=FOC　　全部　　分かる-NPST-ADN
島のこと，彼（=自分の親）が全部分かる。（談話資料）

(123) *nama-gwaa=ru*　　*iibi= ϕ*　　*ki-ta-N.*
今-DIM=FOC　　指=ACC　　切る-PST1-IND
今さっき指を切った。

(124) *taa=ga*　　*nak-iNzja-ga?*
誰=NOM　　泣く-PROG2-Q
誰が泣いているのか？
uttu=ga=ru　　*nak-iNzja-N=ro?*
弟=NOM=FOC　　泣く-PROG2-IND=SFP
誰が泣いているのか？

(125) *biiru=ja*　　*ar-aN=ro.*　　*saa=ru*　　*num-u-ru.*
ビール=TOP　　ある-NEG=SFP　　お茶=FOC　　飲む-NPST-ADN
ビールではないよ。お茶を飲んでるんだよ。

8.　おわりに

本稿では，音韻論，名詞，動詞，形容詞を中心に記述したが，アクセントやモダリティ等の記述を欠き，体系としての記述に及んでいない部分が多くある。他にも連体詞，副詞，感動詞，疑問詞，文末詞など多くの項目の記述も残されており，今後の課題として，引き続き，調査研究を進めていく。

略号一覧

ABL	ablative	奪格	IND	indicative	直説法(終止)
ACC	accusative	対格	INF	infinitive	不定形
ADD	additive	累加	INFER	inferential	推量
ADJ	adjectivizer	形容詞化	INST	instrumental	具格
ADN	adnominal	連体	INT	intentional	意志
ADVL	adverbalizer	副詞化	LIM	limitative	限界格
ADVRS	adversative	逆接	LOC	locative	場所格
ALL	allative	方向格	NEG	negative	否定
CAUS	causative	使役	NMLZ	nominalizer	名詞化
CMP	comparative	比較格	NOM	nominative	主格
CNC	concessive	逆接（確定条件）譲歩	NPST	non-past	非過去
CNF	confirmative clitic	間投助詞	PL	plural	複数
COM	comitative	共同格	POL	polite	丁寧
COND	conditional	条件	POT	potential	可能
COP	copula	コピュラ	PROG	progressive	継続相
CSL	causal	順接（確定条件）原因理由	PST	past	過去
DAT	dative	与格	Q	question particle	疑問助詞
DIM	diminutive	指小辞	QUOT	quotative	引用
DSC	discourse marker	談話標識	RPT	repetition	反復
EMP	emphasis	強調	SEQ	sequential	継起（中止）
EVD	evidential	証拠性	SFP	sentence final particle	文末助詞
FOC	focus	焦点	TOP	topic	主題
GEN	genitive	属格	TER	terminative	限界格
IMP	imperative	命令	TEM	temporal	時間格

参照文献

かりまたしげひさ (2002) 「第 9 章 琉球の方言」江端義夫編『朝倉日本語講座 10 方言』161-179. 東京：朝倉書店.

金城朝永 (1944) 『那覇方言概説』東京：三省堂.

工藤真由美（2004）「第 1 部　序論　標準語研究を超えて」工藤真由美編『日本語のアスペク

ト・テンス・ムード体系』1-76.東京：ひつじ書房.
下地理則 (2018) 『南琉球宮古語伊良部島方言』東京：くろしお出版.
野原三義 (1998) 『新編琉球方言助詞の研究』東京：沖縄学研究所.
比嘉繁三郎 (1990) 『津堅島の記録』沖縄：文進印刷株式会社.
又吉里美 (2016) 「沖縄語津堅方言の記述」『危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』文化庁委託事業報告書, 95-136.
又吉里美 (2015) 「津堅方言の動詞の記述 : 動詞の形態とテンス・アスペクト」『琉球の方言』39: 117-140.
又吉里美 (2007a) 「沖縄津堅島方言における比較基準を表示する格助詞の機能について」『国文学攷』192・193: (27)-(38) .
又吉里美 (2007b) 「沖縄津堅島方言の手段を表示する格助詞の機能について」『日本語の研究』3(1): 49-64.
又吉里美 (2006) 「沖縄津堅島方言の場所格を表示する格助詞の機能についての新しい知見」『国文学攷』190: (1)-(15) .
琉大琉球方言研究クラブ (1989) 『琉球方言 第 17 号 －津堅方言の音韻と語彙－』.